

# 令和4年度 事業報告書

## I 概要

「高岡市総合計画第4次基本計画」では、基本構想の「豊かな自然と歴史・文化に生まれ、人と人がつながる『市民創造都市』高岡」というまちの将来像の実現に向け、「歴史・文化」分野において、「暮らしの中に万葉と前田家ゆかりの文化が息づいている」を掲げている。

これを踏まえ事業団では、地域に根ざした創造的な芸術・文化活動の育成に向け取り組むとともに、各文化施設等が市民に有効に活用されるよう、事業団独自のノウハウやネットワークを活かし、利用者ニーズに沿った施設管理と事業展開に努め、高岡市の芸術・文化の振興に貢献する。

### ○ 文化施設等の適正な管理と利用の促進

令和4年度は、万葉歴史館・美術館・博物館・文化芸能館・ミュゼふくおかカメラ館・動物園の6施設の第5次指定管理協定期間（令和4年度～令和8年度）の1年目であった。

また、令和4年度より、新たな指定管理施設として「高岡市生涯学習センター（ホール施設）」の管理運営を行うこととなり、令和4年度は計7施設の管理運営を行った。

新型コロナウイルス感染症対策の徹底を含め、各文化施設等が利用者に安全・快適に施設を利用していただけるよう、施設管理に万全を期すとともに、利用者のニーズに沿った施設管理と事業展開に努めた。

## II 各施設の事業内容

### 1 事務局事業（文化振興事業）

4月・5月に北陸最大の音楽イベント「風と緑の楽都音楽祭」高岡公演を開催。「ロマンの調べ」をテーマに北陸ゆかりの声楽家・石川公美氏・森雅史氏らによるリベルテ公演のほか、宮田大氏らによるチェロコンサートを生涯学習センターホールにて開催、多くの来場者を魅了した。また昨年4月に完成披露された勝興寺本堂を会場に、富山ゆかりの演奏家による公演を含め全4公演を実施し音楽祭を盛り上げた。

6月には平成6年度より継続する未来へ繋ぐ舞台鑑賞事業「10才のファーストコンサート」を、市内4年生の全児童を対象に、高周波文化ホールにて1日間2公演を開催した。小学校長会及びオーケストラ・アンサンブル金沢の尽力のもとにホール収容率を約50%にするなど感染対策をし、本市が誇る教育普及事業として29回目を無事実施した。

9月から10月にかけて、「カルテット・スピリタス」公演・アウトリーチ事業を、（一財）地域創造の助成を受けて開催。全国各地で活躍するサクソフองグループ「カルテット・スピリタス」を迎え、9月29日、30日に市内小学校2校（野村小・高陵小）を訪問しアウトリーチ事業を実施した。また、10月1日には生涯学習センターホールにて本公演を開催し、多くの来場者がサクソフオン四重奏の音色に魅了された。

11月に高岡特別公演「名曲を紡ぐ和洋コラボレーションコンサート」をオーケストラ・アンサンブル金沢との共催事業として開催した。壮大なオーケストラと上妻宏光の繊細な三味線の音色、響き渡るベイビーブーのコーラスが絶妙なハーモニーを奏でて、多くの来場者に感動を与えた。

12月に教育普及事業としてミュージカル配信動画鑑賞「劇団四季～こころの劇場」を開催した。新型コロナウイルス感染拡大を考慮し、市内各小学校で配信動画を鑑賞できるよう調整し、多くの児童及び関係者が心躍るミュージカルを楽しんだ。

1月に高岡市出身の声楽家・森 雅史（名古屋音楽大学准教授）総合プロデュースによるTakaoka Opera Project【TOP】1年目（3カ年計画）の公演として「奥様女中」

を開催した。北陸ゆかりの演奏家・声楽家による様々な工夫を凝らしたオペラは多くの観客に感動を与えた。

4年目を迎える高岡駅や御旅屋セリオなど「まちなか」に賑わいを創出する「ユニークベニューTAKAOKAプロジェクト」事業の一つで、毎月1～3回のペースで開催する「ユニークベニュー・オン・まちなかステージ」、駅周辺以外での「キャラバンコンサート」、県内で活躍するアーティストによる有料公演の「スペシャルコンサート」を計32回開催した。情報発信事業である文化情報誌「iku\*cha」は地元企業等からの協賛を得て夏・秋・冬・春号を発行し、鋭意PRを進めた。

「どこでもステージ事業」として、市内で活躍する芸術文化団体やアーティストに出演いただき、山町筋×合奏、二上山×尺八・華道の2つの動画を制作し、YouTubeの文化創造都市高岡公式チャンネルで配信した。

「第51回高岡市芸術祭」は、高岡市芸術文化団体協議会・高岡市美術作家連盟とともにテーマ「温故知新（おんこちしん）」とし開催した（10月22日～12月20日）。自主事業では、7月に「夏のわくわくワークショップ」を1回、9月に「青少年わかば公演（第10回たのしい子どもおどりの会）」、10月から「おでかけ公演・講座」を計6講座を開催した。また、新規事業として「伝統芸能文化鑑賞教室」を12月に2回開催し、用意したバスで万葉小学校5・6年生児童と南条小学校5・6年生児童が高岡市文化芸術館・能楽堂に訪れ、能楽の世界を堪能した。

新型コロナウイルス感染状況の影響により昨年度から延期した「第5回みんなで歌おう1000人の高岡第九」公演を、9月3日（土）、4日（日）に、富山県高岡文化ホール・大ホールにて開催した。4月に実行委員会を発足し、市民合唱団を募集、6月に合唱団結団式を行い、以後15回の練習会を重ねた。オーケストラは高岡フィルハーモニー管弦楽団、ソリストは高岡ゆかりの声楽家と、まさに高岡市民で作り上げる公演となった。

## 2 事務局事業（生涯学習事業）

市民の生涯学習及び交流の場を提供し、本市における生涯学習の振興を図るため、さまざまな事業を実施した。

生涯学習センター講座開設事業では、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、「もっと知りたい、ブラジル！」や「もう一つの『高き岡』西山丘陵の今昔を訪ねて」、「勝興寺現地講座」といった多彩な自主講座や、県内の大学と連携して実施する専門的な講座、小中学生を対象とした能楽講座等を開催した。

リトルウイングにぎわい創出事業では、「SONGS LONG VACATION」を開催し、好評を博した。

## 3 万葉歴史館事業

万葉歴史館では、『万葉集』や越中万葉をテーマとした展示や学習講座等を開催し、「万葉のふるさと高岡」と『万葉集』の魅力を全国に向けて発信した。

展示機能では、春の特別企画展「うるわしき万葉植物の世界」では、猪名川万葉植物園オーナーの木田 隆夫氏が撮影した写真と、第一線で活躍中の研究者による万葉歌の解説で、四季折々に花咲く植物に寄せた万葉びとの想いを紹介した。秋の特別企画展「Discovery MANYO(I) 東海地方」では、東海地方の万葉故地にスポットをあて、静岡県・愛知県・岐阜県・三重県の4県にまつわる歌を中心に解説した。勝興寺国宝指定関連事業 特別展示「勝興寺に残る古典籍」では、勝興寺に残る古典籍のなかから、家持が数多くの歌に詠んだ「布勢の水海」ゆかりの「布施湖八勝」や、『源氏物語』『竹取物語』等の古典文学作品を展示した。

教育普及機能では、例年実施している高岡万葉セミナーを開催した。学習講座は、館

長講座「『日めくり万葉集』を読む」・「万葉集をよむ」・「古代への招待」と、出前講座の「はじめての万葉集」(会場 高岡市生涯学習センター)を前年度に引き続き開講した。「大伴家持とともに」は最終講義を開催した。臨地研修型の講座の第9回「越中万葉ウォーク」は、館長と研究員が講師となり、渋谿周辺で開催した。また、富山大学での研究員による万葉集に関する講義等を通して、学生に越中万葉への関心を抱かせ、より親しんでもらえるように取り組んだ。

調査・研究・情報収集機能では、万葉歴史館の研究の成果を紹介する『高岡市万葉歴史館紀要 第三十三号』を出版した。

観光・交流機能では、毎年春と秋の連休に開催している「万葉衣装体験」は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となった。「万葉歌碑魅力発信プロジェクト」では、万葉歴史館は実行委員会に入り、ウェブサイト「万葉歌めぐりの旅」を万葉歴史館ホームページ内に公開した。また、万葉歌碑マップの制作、高岡市内の歌碑案内サインの設置等にも携わった。万葉故地ネットワーク事業では、全国万葉故地サミットが氷見市で開催されるのにあわせて、氷見市芸術文化館を会場に、越中万葉パビリオンのパネルを展示した。万葉への魅力向上を期して、来館者に対しては、親しみやすくボランティア「和草」(説明員)が、学校や団体客等に対しては、研究員自らが案内をした。

他館・地域等との協力では、万葉学習エリア 企画展スペースを会場とした企画展「越中国府・国分寺を掘る」、高岡・射水合同企画展「古代のものづくりと寺院」等が実施され、当館の利用促進につなげた。

#### 4 美術館事業

3月から5月にかけては「アニメーション美術の創造者 新・山本二三展～天空の城ラピュタ、火垂るの墓、もののけ姫、時をかける少女～」を開催した。本展は日本アニメーションを牽引してきたひとりである背景画家・山本二三の、初期から最新作までを通覧できる全国巡回展の第一弾である。緻密で繊細な表現を直に鑑賞出来る機会として、多くの来場者から好評を得た。

5月から6月にかけては「第61回日本伝統工芸富山展」を開催、企画展示室3では「コレクションにみる高岡の金工・漆芸」を併催し、当館が所蔵する金工・漆芸の優品を紹介した。6月から7月にかけては「第28回高岡市民美術展」を開催した。

7月から8月にかけては、「リアル(写実)のゆくえ 現代の作家たち 生きること、写すこと」を開催した。本展は、全国6館の美術館による共同企画展である。近年あらためて注目される日本独自の写実表現の系譜を紹介するとともに、新たなリアル(写実)を模索する現代美術のこれからを考える内容で展覧した。

9月から12月にかけては高岡市および北日本放送との実行委員会で「バンクシーって誰?展」を開催した。すべてが謎に包まれたアーティスト、バンクシーの作品約60点と、ストリート作品などの街並み再現展示約10点から構成された会場には、連日県内外から幅広い世代の方が訪れ、最終的な入場者数は6万人を超えた。

12月には「第51回高岡市芸術祭 高岡市美術作家連盟展」を開催した。また、1月にかけては「第9回クリエイティブ・たかおか ～未来に輝く 高岡市児童生徒作品展～」を、2月には「富山大学芸術文化学部 大学院芸術文化学研究科 卒業・修了研究制作展-GEIBUN14」など、学校と美術館が連携し、市内の小中学校から大学までの児童、生徒、学生らの作品を展覧した。

藤子・F・不二雄ふるさとギャラリーでは、まんが原面の展示を通じて、幅広い世代に藤子・F・不二雄先生のメッセージを伝え、先生の作品を身近に感じていただき、理

解を深めた。

企画展示では、6周年原画展「<sup>タイムトラベル</sup>時間旅行～過去・未来～」(11月27日まで)を開催した。12月1日からは7周年原画展「ピンチ・トラブル・ハプニング!!」を開催している。

## 5 博物館事業

展示事業としては、昨年度から継続して7月まで館蔵品展「昔の道具とくらし」を開催し、当館が収蔵する衣・食・住をはじめとした古い生活道具類「民具」に焦点をあて、それぞれの民具がもつ歴史や用途に加え、その時代を生きた人々の暮らしについて展示・紹介した。

常設展「高岡ものがたり」(通年開催)では、高岡の歴史・民俗・伝統産業を分かりやすく紹介し、団体見学への展示解説等を行った。常設展の内「お宝コーナー」では、「商店広告にみる高岡」、「高岡初の町絵師・堀川敬周の新収品」、「高岡漆器の魅力」、「国泰寺のお宝① 伝近藤勇の甲冑」を順次開催した。

また、7月末から開始した特別展「没後100年 高峰譲吉記念展」では、令和4年(2022)に高岡出身の世界的科学者・実業家で日米親善に尽くした高峰譲吉(1854～1922)の没後100年を記念し、高峰譲吉博士顕彰会蔵で当館寄託の高峰譲吉関係資料をはじめ、近年高岡市教育委員会に寄贈された譲吉のニューヨーク郊外の別荘「松楓殿」に関わる調度品、工芸品なども展示し、“無冠の大使”高峰譲吉の功績について紹介した。

11月末から開始した館蔵品展「新資料展 一 国宝指定答申記念 勝興寺関連文書を中心に」では、令和4年(2022)10月12日に国宝指定答申(12月12日指定)のあった勝興寺関連の古文書などを展示・紹介した。

2月に開始した館蔵品展「昔の道具とくらし」では、当館が収蔵する衣・食・住をはじめとした古い生活道具類「民具」に焦点をあて、それぞれの民具がもつ歴史や用途に加え、その時代を生きた人々の暮らしについて展示・紹介した(特集展示コーナーでは「嫁のれん」を展示。次年度7月9日まで開催予定)。

教育普及事業としては、外部講師による郷土学習講座(全3講)、当館職員による特別展講演会(1回)、古文書講座「初めての古文書教室」(全6講)のほか、今年度初開催となる伝統産業講習会「漆製品の取扱い」(1回)を開催した。また、呈茶の会「呈茶の会 一 博物館の松聲庵で抹茶を楽しみませんか」(春・秋)のほか、桜の開花時期にあわせた屋上開放イベント「古城公園展望台」を開催した。そのほか、講師・委員の派遣、出演、監修、制作協力なども行った。

資料収集・保存活動では、高岡の歴史・民俗・伝統産業に関わる資料の収集・保存に努めた。また国泰寺より伝近藤勇所用当世具足の寄託を受けた。

調査研究活動では、日ごろ博物館に寄贈される資料の調査・整理に取り組んだ。また、「産学官連携に基づいた地域資料継承支援事業」の一環で、高岡市伏木地区の古文書等歴史資料の調査研究活動を行った。加えて「高岡鋳物の製作用具及び製品」の重要有形民俗文化財指定にかかる当館所蔵の鋳物資料調査を行いながら、これまでに調査が終了した資料台帳の内容を精査し、当館収蔵資料情報のデジタル化を進め、1,222件の資料情報をネット公開している。

## 6 文化芸能館事業

諸室の貸与では、13室の貸室があり、3階の能舞台では、能楽をはじめとする古典芸能に活用された。

また、1・2階の研修室等では市民の学習・文化活動・芸能活動・各種会合等で利用された。

## 7 ミュゼふくおかカメラ館事業

当館では、クラシックカメラの保存・活用並びに写真文化の振興・発展を図り、カメラ文化の知識と理解を深める生涯学習の拠点として事業を展開している。

企画写真展事業では、4月～5月は風景写真家の第一人者であり日本の原風景を求めて“撮影旅”を続けてきた竹内敏信が桜霊力と表現する美しい「日本の桜」シリーズを一堂に展示した。また写真界に衝撃と新風をもたらした「天地聲聞」シリーズを追悼展として併催し、2月に逝去された氏の功績を偲んだ。

6月～7月は「松龍&Ritsuko Matsushita ふたり展」と題し、国内外で評価が高まる作家夫婦が「宇宙」を共通テーマに写真の枠を超えた現代アート作品を展示した。7つのシリーズで構成し、コロナ禍や地球温暖化など見る者に問いかけ、気づき、考える2人の感性溢れる試みが新鮮な感動を届けた。

夏休み期間を含む7月～9月は動物写真家として第一線で活躍してきた吉野 信による50年の節目の写真展「野生の輝き」を開催した。全てフィルムで撮影された大型作品を圧巻のスケールで一堂に紹介し、子ども連れの家族を中心とする多くの来館者に感動とともに大自然の中で凜として生きる動物たちの姿や親子の優しい表情を通して地球上で共に生きることへの強いメッセージを届けた。

10月～12月は全国の風景写真愛好家たちの憧れの場となっている富士フィルム株式会社と隔月間「風景写真」が毎年取り組む公募展「美しい風景100人展」を初開催した。四季が織りなす日本の風景の素晴らしさを100点で見事に表現した巡回展であり、さらに銀写真プリントが施された全応募作品の美しさもプラスし多くの来館者を魅了した。

教育普及事業では、1月～2月は巡回展「富士フォトコンテスト入賞作品展」ほか地域の写真活動を紹介した。さらに2月～3月の「ワンダーフォト写真展」では富山県写真家協会・富山県写真連盟作品とともに夏から冬にかけて「たいせつなもの」をテーマに全国公募した「ワンダーフォトコンテスト」全応募作品を展示し、地域の交流や賑わいとともに写真の楽しさを共有した。

カメラ常設展事業では、6月～12月まで「デビュー！New コレクション!!」、1月から「シネカメラ・ショー！」を開催し、約4,000点もの収蔵資料の中からテーマ毎に分かりやすく展示した。夏休み期間は「クイズ！わくわくカメラカン」と題し、小・中学生を対象にクイズラリー形式でカメラに親しむ機会も提供した。

## 8 古城公園動物園事業

動物園では飼育展示のほか、特別展、動物園だよりの発刊等の事業を実施した。

コロナ禍で中止としていた、ウサギやテンジクネズミ等の小動物に直接触れることができる「ふれあい広場」の事業については、3月25日より人数・時間制限を設けて実施し、好評を得ている。

レクリエーション施設としての機能はもとより、情操教育の場及び環境保全への貢献のために、動物愛護の啓発や情報発信、園内での繁殖に努めた。

## 9 高岡市生涯学習センター（ホール施設）事業

403席を有する劇場ホールの貸館業務を実施し、音楽公演や講演会などの生涯学習利用や、企業の研修会利用など、貸与回数210回、利用者数25,586人と、多くの方に利用された。

### Ⅲ 評議員会に関する事項

#### 1 審議内容

- |              |                         |    |
|--------------|-------------------------|----|
| (1) 第23回評議員会 | 令和4年5月31日開催             |    |
| 報告第1号        | 令和3年度事業報告について           | 承認 |
| 議案第1号        | 令和3年度決算の承認について          | 可決 |
| 議案第2号        | 理事の選任について               | 可決 |
| (2) 第24回評議員会 | 令和4年12月1日開催(書面によるみなし決議) |    |
| 議案第3号        | 理事の選任について               | 可決 |

#### 2 評議員の異動状況

令和5年1月24日 評議員 樽谷 雅好 辞任(死亡)

### Ⅳ 理事会に関する事項

#### 1 審議内容

- |             |                          |    |
|-------------|--------------------------|----|
| (1) 第55回理事会 | 令和4年5月11日開催              |    |
| 議案第1号       | 令和3年度事業報告の承認について         | 可決 |
| 議案第2号       | 令和3年度決算の承認について           | 可決 |
| 議案第3号       | 第23回評議員会の招集について          | 可決 |
| 報告第1号       | 代表理事と専務理事の職務執行状況について     | 承認 |
| (2) 第56回理事会 | 令和4年5月31日開催(書面によるみなし決議)  |    |
| 議案第4号       | 理事長(代表理事)の選定について         | 可決 |
| 議案第5号       | 副理事長(代表理事)の選定について        | 可決 |
| 議案第6号       | 専務理事(業務執行理事)の選定について      | 可決 |
| (3) 第57回理事会 | 令和4年12月1日開催(書面によるみなし決議)  |    |
| 議案第7号       | 第24回評議員会への議案提出について       | 可決 |
| (4) 第58回理事会 | 令和4年12月20日開催(書面によるみなし決議) |    |
| 議案第8号       | 令和4年度補正予算(第1号)の承認について    | 可決 |
| (5) 第59回理事会 | 令和5年3月1日開催(書面によるみなし決議)   |    |
| 議案第9号       | 令和4年度補正予算(第2号)の承認について    | 可決 |
| (6) 第60回理事会 | 令和5年3月29日開催              |    |
| 議案第10号      | 令和5年度事業計画の承認について         | 可決 |
| 議案第11号      | 令和5年度予算の承認について           | 可決 |
| 報告第2号       | 代表理事と専務理事の職務執行状況について     | 承認 |

#### 2 理事、監事の異動状況

- |              |    |       |       |
|--------------|----|-------|-------|
| (1) 令和4年4月1日 | 理事 | 二塚 英克 | 就任(新) |
|              | 監事 | 柳原 隆  | 就任(新) |

|               |    |       |        |        |
|---------------|----|-------|--------|--------|
| (2) 令和4年5月31日 | 理事 | 小栗 久雄 | 就任 (再) |        |
|               | 理事 | 角田 悠紀 | 就任 (再) |        |
|               | 理事 | 川西 邦夫 | 就任 (再) |        |
|               | 理事 | 坂本 信幸 | 就任 (再) |        |
|               | 理事 | 高野 武美 | 就任 (再) |        |
|               | 理事 | 武山 良三 | 就任 (再) |        |
|               | 理事 | 辻 やす子 | 就任 (再) |        |
|               | 理事 | 氷見 哲正 | 就任 (再) |        |
|               | 理事 | 二塚 英克 | 就任 (再) |        |
|               | 理事 | 蓑 厚行  | 就任 (再) |        |
|               | 理事 | 村上 隆  | 就任 (再) |        |
|               |    | 理事長   | 角田 悠紀  | 就任 (再) |
|               |    | 副理事長  | 氷見 哲正  | 就任 (再) |
|               |    | 専務理事  | 高野 武美  | 就任 (再) |

※理事の任期：令和6年5月定時評議員会の終結の時まで

|                |    |       |    |
|----------------|----|-------|----|
| (3) 令和4年11月30日 | 理事 | 川西 邦夫 | 辞任 |
|----------------|----|-------|----|

|               |    |      |        |
|---------------|----|------|--------|
| (4) 令和4年12月1日 | 理事 | 二口 真 | 就任 (新) |
|---------------|----|------|--------|

※理事の任期：令和6年5月定時評議員会の終結の時まで

|               |    |       |    |
|---------------|----|-------|----|
| (5) 令和5年3月31日 | 理事 | 坂本 信幸 | 辞任 |
|---------------|----|-------|----|